



## 街角の宝探し ガチャポン巡り



市立大学

学生広報スタッフ

最初に訪れたのは、青果市場内にある24時間営業の便利な「野菜自動販売機」。商品価格は100～900円で、ロッカーごとに野菜や果物が陳列されています。その一角には「やめちょけ」「DANGER」「玉手箱」の文字が…。何を引いても文句無し、そそられますよね！ 100円玉を何枚も投入し挑戦したところ、段ボールいっぱいの小松菜やチンゲン菜、シイタケなど、ボリューム満点の野菜を獲得できました。購入者同士で引いた野菜を見せ合ったり、交換したりする姿も見られ、にぎわいを感じました。1 2 3

続いて向かったのは、唐戸市場内にある「ふぐガチャ」です。1回3,000円で何を引いても豪華な内容となっており、TikTokやYouTubeでも人気ぶりがうかがえます。観光客も物珍しそうに眺めていました。商品箱が入っている冷凍庫と長時間にらめっこした後、選んだ箱をオープン！なんと「養殖トラフグコース(3～4人前)」を引き当てることができました。4 5

今回の取材で野菜とフグを手に入れた

ので、夕食はふぐ鍋を作りました。6

普段とは一味違う食材を堪能し、下関ならではの体験を満喫できました。市内にはまだまだご当地ガチャポンがあります。運試し要素が強いからやめちょいてもよし！ ロマンを追い求めるもよし！ あなたはどっち派ですか？



## SAITO TERUHISA

豊北地域 齊藤 輝向 隊員(さいとう てるひさ)

令和6年11月に地域おこし協力隊に着任。滝部の空き家をリノベーションして飲食店と民宿の開業を目指す。お店の名前は「こいもさん」。出身地・京都では里芋のことを親しみを込めてこう呼び、誰からも気軽に声を掛けてもらい、多くの人が集う温かな場所にしたいと名付けた。

1日限りの「こいもさん」



昨年、滝部で開催された「みちくさマルシェ」で、リノベーション中の店舗を使った1日限りのこいもさんをオープンしました。準備期間が非常に短く、どうにか形になったのが当日の朝。仲間力を借り、ようやく迎えた開店でした。

地元の食材を使った焼きそばや角煮を提供したのですが、開店直後から地元や外国人ツアーのお客まで店内はてんやわんや。不慣れなためにお待たせしたり、食材を切らしたりと冷え込みの厳しい日ながら汗びっしょりの1日となりました。

そんな中、お客さまの「待ってるから大丈夫だよ！」という言葉や温かい笑顔にどれほど救われたか分かりません。反省点も多くありますが、正式オープンに向けた良い経験と励みになりました。

次回は、3月22日に地域おこし協力隊イベントを予定しています。また皆さんの笑顔にお会いできることを楽しみにしています。



下関市地域おこし協力隊員は11人です(1月15日現在)